

## システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士( 工学 )
専 攻	知能機能システム	専攻	著者氏名	尾崎 正宗
指導教員氏名		掛谷 英紀		
論文題目				
国会会議録の自動要約システムの研究				
論文概要				
<p>本論文では、国政選挙において投票先を決める参考資料として使える国会会議録自動要約システムを提案する。</p> <p>国政選挙の際、政党の掲げるマニフェストを参考にして投票するという考え方が一時期流行した。しかしながら、現実には公約したはずのマニフェストが破られたり、政党自体が分裂することがしばしばある。また、選挙時だけ耳触りのいいことを語る候補者も多い。こうした一時の流行や言動に惑わされず、候補者の資質や思想を見抜くには、彼らの普段の言動を参考にするのが理想的である。しかし、現実には政治家の普段の言動を逐次チェックするのは難しい。そこで、本研究では国会における議員の発言を要約し、短時間で国会議員の普段の言動の傾向を読み取れるような情報提供を行うシステムの実現を目指す。その具体的手段として、本論文では2つの要約文自動生成手法を提案する。</p> <p>1つ目の手法は、専門用語辞書 <b>TermExtract</b> で重要度を設定してナップサック制約付最適化問題 (<b>MCKP</b>) を解くことで要約文を作成する手法である。従来は <b>tf-idf</b> 法で算出した重要度に基づいた要約が提案されているが、国会での議論の特性を踏まえ、専門用語辞書による重要度設定を用いることを試みた。これに加えて、意見を主張する際によく用いる表現をフィルタとして意見文を取り出す手法も試みた。</p> <p>2つ目の手法は、コメント付き動画サイトのコメントが多く付いている部分を抽出して要約文を生成する手法である。この方法で自然な要約文を作成する方法として、コメントが多い部分を段落単位で抽出してつなぐ手法を試みた。</p> <p>以上の方法に基づいて作成した要約文について、従来手法の要約文と混ぜて被験者に提示し、要約文としての評価を問う実験を行ったところ、動画サイトでコメントの多い部分を抽出する要約文が最も高い評価を得た。</p>				
審査日	平成 27 年 1 月 28 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(工学)	掛谷 英紀	
副査	筑波大学 教授	工学博士	丸山 勉	
副査	筑波大学 教授	博士(工学)	宇津呂 武仁	